

American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第40回

ザ・バンド

「ダニエル・アンド・ザ・セイクリッド・ハープ」

悪魔に魂を売り聖なる楽器を手に入れた男



The Band
"Stage Fright"
Capitol SW425 [1970]
→ユニバーサル©TOCP95108

教会で古くから歌われている独特なアカペラの歌い方で、これにも掛けている。正確に言えば、歌い方を 'sacred harp singing' といい、楽譜を 'sacred harp' というでは、曲に入ろう。

Daniel, Daniel and the sacred harp
Dancing through the clover

この曲は、ダニエルという人物と彼の友人を通してストーリーを描いている。《ああ、あのダニエルと聖なるハープが、クロウヴァーの中を踊っている》。この、クロウヴァーの中で踊っているという部分は、《幸せに見える》という印象を表現している。クロウヴァーはラッキーなイメージを持つ植物だ。一般的には三つ葉だが、四つ葉を見つけた人がラッキーだと言われることは有名だよ。'live in clover' という言葉もあって、これは贅沢に暮らすことを指す。もともとは、牛にクロウヴァーを食べさせるとよく太る、ということに由来するようだ。

Daniel, Daniel

ロック・レジェンドにまつわる話で一番有名なのは、きつとロバート・ジョンソンがギターがうまくなるためにクロスロードで自分の魂を悪魔に売ったというものだろう。この話に影響された曲は、ボブ・ディランの「フランキー・リーとジュダス・プリーストのバラッド」やチャーリー・ダニエルズ・バンドの「悪魔はジョージアへ」がある。でも俺は、このザ・バンドの「ダ

ニエル・アンド・ザ・セイクリッド・ハープ」が一番好きだ。
この曲は、ザ・バンドの3枚目のアルバム『ステージ・フライト』に入っていた。タイトルにある 'sacred harp' (神聖なハープ) の 'harp' は、クラシックでよく使う弦楽器を指すこともあるが、この曲ではブルース・ハープ＝ハーモニカを指している。さらに 'sacred harp' は、アメリカの

Would you mind if I look it over

ここからは、その友人がダニエルに話しかける。《ダニエル、僕にちょっと見せてくれなからか》の 'would you mind' は、何かをなせつちふせなからかて聞う際に使うとして 'look it over' は△調べる▽とらう意味だ。

I heard of this famous harp years ago
Back in my hometown
But I sure never thought
Old Daniel be the one
To come and bring it around

ここからは、ダニエルの知り合いがギターのような役目で、この神聖なハープについて語ってくれる。《僕は何年か前にこのひとつしかない有名なハープの噂を故郷で聞いたことがあった》。この友人とダニエルは、地元が一緒なのだ。《でも、まさかのダニエルが、そのハープを持って帰ってくるとは思ってもしなかった》。ここでの 'old' は年寄りではなく、仲間や親しい人物という意味で使われている。詩か

らすると、ダニエルは若い感じてハープは伝説的な古いもの、そんな対照的なかたちで登場させている。

Tell me Daniel how the harp
Came into your possession
Are you one of the chosen few
Who will march in the procession

友人がダニエルに話しかけている。《ダニエル、教えてくれ。どうやってそのハープを手に入れたんだい？ 君は天国に向かって行進するような、選ばれた人間のひとりのからか》と尋ねている。

And Daniel said
The sacred harp was handed down
From father unto son
And me not being related
I could never be the one

その質問に対して、ダニエルはこう答える。《この神聖なハープは、父親から息子へと代々伝わるものだ。僕はそんな血筋ではないから、手に入れることはできないん

だ》。

So I saved up all my silver
And took it to a man
Who said he could deliver the harp
Straight into my hand

《だから僕は銀を貯めて、ある男に持っていった。その男が、僕に神聖なハープを届けると約束したからだ》。ここに出てくる 'silver' とは、お金のことを指す。恐らく、男に金を渡して神聖なハープを盗ませただろう。

Three years I waited patiently
'Till he returned with the harp
From the Sea Of Galilee

《僕は3年間、その男がガリラヤ湖からハープを持って戻ってくるのを待っていた》。この 'Sea Of Galilee' はイスラエルにある湖。ヘブライ語では《ヤム・キネレト》と呼ばれ、これは堅琴を意味する《キノル》に由来している。湖のわたしが堅琴に似ているからそう名づけられたとい

う説もある。

He said there is one more thing I
must ask

But not of personal greed

But I wouldn't listen

I just grabbed the harp

And said take what you may need

「ハープを持ってきた男がこう言った。一つだけ頼みがある。個人の嘆きのために弾いてはならない…。しかしダニエルは最後の言葉を聞かず、ハープをつかんでその男にこう言った。必要だけ(金を)持っていけ」。ここでダニエルは、どんな危険な取引を男としてしまったのか、自分でわかっていな。

Now Daniel looked quite satisfied

And the harp it seemed to glow

But the price

That Daniel had really paid

He did not even know

友人が続ける。《ダニエルは満足したよ



うに見えた。そしてハープは輝いているように見えた。しかしその代償を、ダニエルはわかっていなかった。

Back to his brother

he took his troubled mind

And he said dear brother

I'm in a bind

But the brother

Would not hear his tale

He said Old Daniel's gonna land in

jail

「」では、それまで幸せに見えたダニエルが、不安そうに描かれている。《彼は家族のもとへ行き、兄のところに相談に行った》。「troubled mind」は「混乱した心」というような意味だ。《兄さん、大変なことになってしまった》。「in a bind」は縛られて動きもとれないこと。契約をしたときにも使う言葉だ。《だが兄は彼の話聞いてくれず、こう言った。ダニエル、お前は刑務所に入れられるぞ》。「land in jail」は、まるで飛行機が着陸するように、刑務所に入ることをいう。

And so to his father Daniel did run
And he said O father what have I
done
His father said
Son, you've given in
You know you've won your harp
But you lost in sin

今度は父のもとに走っていった。そいつでこう言った。《お父さん、僕はいったい何をしてしまったんだ!! 父はこう答えた。息子よ、お前は負けたんだ。ハープは手に入れたけれど、罪を犯してしまった》。本来は神聖なハープを受け継ぐことができない血筋にも関わらず、金を使って男に盗みを働かせた。その男(＝悪魔)が盗みにとんな手段を使ったのか、想像に難くない。

And Daniel took the harp

And went high on the hill

And he blew across the meadow

Like a Whippoorwill

友人がまた話す。《ダニエルはハープを持って丘の上に行き、そこでウイパーウイ

ルのように丘一面にハープの音を響かせた》。「Whippoorwill」はモタカの種類。鳴き声がぎざりな鳥だ。「blow」は吹くの過去形「blew」が使われていることから、この詩に出てくる「harp」が堅琴ではなくハーモニカの「こと」を指していることが分かる。

He played out his heart

Just the time to pass

But as he looked to the ground

He noticed no shadow did he cast

《彼は時が経つのも忘れるほど懸命に演奏した。そして地面を見ると、自分の影がないことに気づいた》。ダニエルは命と引き換えに、美しい音色を手に入れた。

Daniel, Daniel and the sacred harp

Dancing through the clover

Daniel, Daniel

Would you mind if I look it over

この曲のコラスはこの部分だろうが、この歌詞は曲の頭と終わりにしか出てこな

い。本棚を挟むブックエンドみたいな存在だ。ストーリーを挟む本の表紙と裏表紙とも言えるだろう。

多くの人はロックを聞き始めると、いずれブルースやカントリーにたどり着く。でも最初のうちは、ビートルズがカヴァーしたブルース、ブラインド・レモン・ジェフ・アーソンの「マッチボックス」でさえ、聴きづらいのではないかと思う。俺は1969年にB・B・キングがリリースしたロイ・ホーキンス・リック・ダーネルの「ザ・スリル・イズ・ゴーン」が初めて楽しく聴けたブルースだった。そして、最終的にはロバート・ジョンソンの「クロスロード・ブルース」を聴くことになる。テーマはこの「ダニエル・アンド・ザ・セイクリッド・ハープ」と同じ。音楽がうまくなるためには悪魔と取り引きをしなければならぬというものだ。

この曲を書いたといわれるロビー・ロバートソンは若い頃からギターがあまりにもうまかったので、回りから冗談半分に悪魔に魂を売ったんじゃないかと言われていたそう。ちなみに、この曲にハーモニカの音が入っていないのもおもしろい話だ。